

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに当社グループ第88期（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）の報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当期における当社グループを取り巻く事業環境は、米国の内需は堅調に推移しましたが、中国をはじめとした新興国経済の減速や欧州の景気低迷、英国のEU離脱問題、米国の政権移行に伴う影響に加え、国内では個人消費の停滞が続くなど先行き不透明な状況で推移しました。

このような状況のなか、当社グループは今後成長が期待される車載、住宅、環境エネルギー、情報通信などの市場において、グローバルでの新規顧客の開拓に努めるとともに、IoT時代の到来に向けて、さまざまなデータを取得できるセンサーデバイスや再生可能エネルギーの電力貯蔵および非常用電源としての需要に対応した大容量のニッケル水素蓄電池「メガトワイセル®」を開発いたしました。また、次世代電池として期待されている全固体電池の製品化に向けて、高エネルギー密度を有し安全性の高い全固体リチウムイオン電池の正極材料を開発いたしました。さらに、クレジットカードをはじめとした多機能カード向けに事業拡大が見込まれる薄形リチウム電池については、生産設備を増強いたしました。

FUJITSUアルカリ乾電池シリーズについては、漏液防止性能および長期保存後の放電性能の向上を実現するとともに、顧客ごとのコンセプトに対応した製品の開発などを推し進め、供給数量の拡大に努めました。また、環境配慮製品として高く評価をいただいているFUJITSU充電電池につきましては、プロモーション活動の一つとしてイメージサウンドを国内外へ発信するとともに、インターネットやSNSを通じて、グローバルでのブランド認知度の向上に努めました。

一方で、当社はコーポレート・ガバナンスの強化、充実を目的に平成28年6月28日に開催されました第87回定時株主総会決議にもとづき、監査等委員会設置会社へ移行いたしました。これに伴ない業務執行と監督機能の分離が加速され、取締役会の実効性の向上および透明性の高い経営の実現に繋がっております。

事業構造改革につきましては、リチウム電池事業の生産子会社を平成28年10月1日付で吸収合併するとともに、電子事業部門では、会計基準にもとづき固定資産の減損処理を実施いたしました。

この結果、当期の当社グループ全体の売上高につきましては、736億82百万円、営業損失は3億30百万円、経常損失は6億97百万円、親会社株主に帰属する当期純損失は31億66百万円となりました。当期の業績の詳細につきましては、当報告書の2ページをご覧ください。

配当につきましては、未だ欠損状態でありますので、誠に遺憾ではございますが見送らせていただきたいと存じます。株主の皆様には誠に申し訳なく、心よりお詫び申し上げます。

次に平成29年度の展望について申し上げます。当社グループを取り巻く事業環境は、当期に引き続き国内外での個人消費の伸び悩みや地政学的リスクなど先行き不透明な状況が予想されます。

このような状況のなか、当社グループは、成長に向けて事業構造を電池事業主体のビジネスモデルへ変革させ、安定的な収益の確保を図ってまいります。具体的には、電池事業につきましては、既に当社に吸収合併したニッケル水素電池ならびにリチウム電池の両子会社に続き、アルカリ乾電池の生産子会社と一体となった事業運営についての計画を進め、経営判断のスピードをあげて電池事業の拡大を図ってまいります。電子事業につきましては、今後、より一層の選択と集中を進めるとともに、当社グループの特徴である材料からの新製品開発力を活かした電源事業や成長著しい車載部品市場で要求される高出力・低ロス対応部品事業、スマートフォン市場での増加が見込まれる小型・高出力パワー部品事業に注力してまいります。また、CSR活動につきましても引き続き注力することにより、企業体質の強化を図りFDKグループの持続的な成長に繋げ、企業価値の向上に努めてまいります。

今後とも引き続き当社グループをご支援賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



平成29年6月

代表取締役社長

望月 達正